

2026 年世界人工知能会議（WAIC 2026）の内容・評価と日本企業への提言

Claude Fable 5

2026 年 7 月 19 日作成（会期 2026 年 7 月 17 日～20 日・上海、開催中時点の情報に基づく）

要旨

2026 年世界人工知能会議（WAIC 2026）は、習近平国家主席が 2018 年の発足以来初めて開幕式で基調演説を行い^{1,4,5}、開会前日の 7 月 16 日には 29 カ国が「世界人工知能協力組織（WAICO、本部・上海）」設立協定に署名した^{1,6,7}。中国は AI を国家戦略かつ外交手段と明確に位置づけ、オープンソースを「公共財」として掲げてグローバルサウスの取り込みと国際ルール形成の主導権確保を加速させている^{9,25}。技術面では、モデル性能競争から「システム・実装・AI エージェント・フィジカル AI」への移行が鮮明となった。日本企業には、中国製オープンウェイトモデルと非 NVIDIA 計算基盤の実用化、および米中の陣営分断（米国主導 Pax Silica 対 WAICO）という二正面の変化に備えた、事業・技術・知財・政策の各戦略の再点検が求められる。

1. 会議の概要（確認された事実）

会議の正式名称は「2026 世界人工智能大会・人工智能全球治理高級別会議」であり、2026 年 7 月 17 日から 20 日まで上海の世博・張江・徐匯西岸の「三地四館」で開催されている。テーマは中国語で「智能伙伴，共創未来」、英語で「AI Partnership for a Brighter Future」である^{2,24}。展示面積は史上初の 10 万平方メートル超、出展企業 1,100 社超、展示品 3,000 点超（うち 300 点超が世界初公開）、140 超のフォーラムに 1,400 人超のゲストが参加する^{2,12,24}。主催は外交部・国家発展改革委員会・工業情報化部・教育部・科学技術部・国務院国有資産監督管理委員会・国家インターネット情報弁公室・中国科学院・中国科学技術協会および上海市である²

政府要人としては、習近平主席が発足以来初めて開幕式に出席し、「公正で公平なグローバル AI ガバナンス体制の構築に手を携えて」と題する基調演説を行った^{1,4,5}。カザフスタンのトカエフ大統領、カンボジアのフン・マネット首相、タイのアヌティン首相、国連のグテーレス事務総長も演説した¹

習演説の要点は次の通りである。第一に「AI の発展は一国の独奏ではなく国際協力の交響曲であるべき」と述べ、第二に「AI 分野で国家安全保障の概念を過度に拡張し、一国の安全を他国の上に置くことに共同で反対すべき」と主張した（複数の欧米メディアは米国の輸出規制への牽制と解釈）

4,9,25。第三にオープンソースの「歴史的機会」を掴むべきと訴え、第四に人間による制御・早期警戒・緊急対応の必要性を指摘した⁴。具体策として、今後5年間で途上国に5,000のAI研修枠を提供すること、ASEAN・アラブ連盟・アフリカ連合・CELAC・上海協力機構・BRICSとのAI応用協力センターを設置すること、30カ国にAI気象警報システム「MAZU（媽祖）」を提供することを表明した^{1,4}

中国AI産業の規模について、習演説および新華社の報道によれば、2025年のコアAI産業規模は1.2兆元（約1,766億ドル）を超え、AI企業は6,200社超、中国のオープンソース大規模モデルの累計ダウンロードは100億回を超えた¹。工業情報化部は7月16日の会見で、2026年のヒューマノイドロボット生産が10万台を突破する見通しを示した¹¹

2. 主要な技術発表（確認された事実）

2.1 Huawei（半導体・計算基盤）

Huaweiは「Atlas 950 SuperPoD」の実機を初公開した。最大8,192個のAscend 950DTチップを接続する構成で、同社の公式基調講演（2025年9月）ではFP8で8EFLOPS、FP4で16EFLOPS、メモリ1,152TB、インターコネクト帯域16PB/s（NVIDIA NVL144比で総計算力6.7倍・メモリ15倍・帯域62倍）と主張されている^{21,32}。64台のSuperPoDを束ねた「Atlas 950 SuperCluster」は52万超のAscend 950DTで構成され、2026年第4四半期に提供予定である。ソフトウェア（CANNコンパイラ、torch_npu、openPangu）はオープンソース化され、DeepSeekの最新モデルがAscend上で本番稼働することも示された^{21,32}。なお、これらの性能値はすべてベンダー公称値であり、単チップ性能では短期的にNVIDIAに劣後することをHuawei自身が認めている点に留意が必要である³²

2.2 Moonshot AI・Alibaba・Baidu・その他

Moonshot AIは「Kimi K3」を発表した。2.8兆パラメータで史上最大級のオープンウェイトモデルを標榜し、DeepSeek V4 Pro（1.6兆）やZhipu GLM（7,440億）を上回る。スパースMoE構造により1トークンあたり約500億パラメータのみを活性化し、コンテキスト長は100万トークンである。一部の米国製最先端モデルに匹敵ないし上回るとするベンチマークが提示され、重みの公開は7月27日予定とされる。市場は「第2のDeepSeekショック」と反応した^{13,26}

Alibabaは「AIファクトリー」戦略の下、エージェント特化の旗艦モデルQwen3.7-Max（最大35時間の自律連続稼働を主張）、自社チップT-Head「Zhenwu M890」（144GB HBM、チップ間800GB/s）、ラックスケール「Panjiu AL128」を展示した^{14,15}。Baiduはチップ（Kunlun M100/M300）・スーパーノード（天池）・クラウド・モデル（ERNIE 5.0、2.4兆パラメータ）・エージェントの「フルスタック」自社開発を展示し、CEOの李彦宏はKPIとして「Daily Active

Agents (DAA) 」を提唱した¹⁶。このほか MiniMax のマルチモーダルモデル「M3」、曦智科技の光電融合計算「天枢・光立方」など、展示全体では 108 チップ・261 基盤モデル・208 具身知能端末が集中展示された^{12,18}

2.3 ヒューマノイド／フィジカル AI

今年の最大の新潮流は「フィジカル AI（具身知能）」の量産・実配備フェーズへの移行である。AgiBot（智元機器人）は A3 Ultra 等 4 製品を発表し、会場に 30 台超を実稼働配備した¹⁷。Omdia の調査（2026 年 1 月 8 日公開）によれば、AgiBot は 2025 年に 5,168 台を出荷し世界シェア 39%で出荷台数・シェアともに世界 1 位（世界総出荷約 13,000 台、前年比約 400%増、Unitree が 4,200 台で 2 位）である³⁰。Unitree は科创板 IPO を通過（調達 42 億元超、年 20,000 台出荷目標）、UBTECH は超写実型「Utopia U1」を発表した^{18,19}。国家电网が約 68 億元（約 10 億ドル）のロボット大型調達を発出したことも報じられている¹⁸

3. AI ガバナンス・国際協調（確認された事実）

開幕前日の 2026 年 7 月 16 日、29 カ国が「世界人工知能協力組織（WAICO）」設立協定に署名した。本部は上海に置かれる。新華社および Global Times によれば、王毅外相が中国代表として署名し、カザフスタン・ラオス・パキスタン・ロシア・インドネシア等が創設メンバーとなり、グテーレス国連事務総長が出席した。同組織は「世界初の政府間 AI 国際機関」を標榜し、国連憲章の目的を堅持しグローバルサウスの AI 格差是正を掲げる^{1,6,7,8}

Reuters（7 月 16 日）は、加盟国としてロシア・ベラルーシ・セルビア・キューバ・ブラジル・ベネズエラに加えアフリカ 10 カ国・アジア 12 カ国と報道した。名指しされた加盟国はカザフスタン、ラオス、パキスタン、ロシア、インドネシア、マレーシア、南アフリカ、セネガル、エチオピア、カメルーン等であり、BRICS からはインドを除く 4 カ国が参加した^{6,25}。ただし中国は完全な 29 カ国リストを公式には公表しておらず、この点は複数媒体が指摘している。また、G7 を含む主要西側諸国（日本・米国・英国・ドイツ・フランス等）はいずれも署名していない^{6,7}

7 月 17 日に発出された議長声明（Chair's Statement）は、①発展と安全・イノベーションと統治・国益と世界的福祉のバランス、②オープンソースを「包摂的 AI 発展の重要な道筋」とし「健全な知的財産保護を前提に」研究成果・技術経験の共有を促進すること、③AI を常に人間の制御下に置くこと、④金融・電力・通信・交通等の重要インフラへのリスクに留意しフロンティア AI にガードレールを設けること、を明記した³。同声明は法的拘束力のある条約ではなく、声明・提案である点に留意が必要である。WAICO は 2025 年の WAIC で李強首相が提唱し、同年 10 月の APEC で習主席が再提起した経緯がある^{7,23}

4. 国際的な評価・報道論調（事実と分析）

中国国内メディア（新華社・CGTN・Global Times）は習演説を「公正で公平なガバナンス」の主導として称揚した。Global Times は、The Economist が中国のオープンソース AI を「罨」「リスク」と評したことを「中傷」と反論し、BMW のドイツ担当者が Qwen・DeepSeek の採用とコスト効率を高評価したとの証言を掲載した⁸

欧米メディアでは、Reuters（7 月 17 日）が「習主席が中国を新たな世界 AI 秩序の擁護者と位置づけ、オープンソースを公共財として米国の影響力に対抗している」と分析した²⁵。Quartz 等は対米牽制と「グローバルサウス取り込み」を強調し⁹、Fortune は「Kimi K3 による第 2 の DeepSeek ショック」と報じた²⁶。米国主導の対抗枠組み「Pax Silica」（AI Opportunity Statement 署名 35 カ国）との対比構図も報道された^{25,31}。西側には、中国製 AI 端末が国家情報法（第 7 条）の下にある点への安全保障上の懸念も存在する¹¹。日本メディアでは日本経済新聞（7 月 17 日、上海発）が「習氏『グローバルな AI 統治体制構築を』」と報じた¹⁰

WAIC 2025 との比較では、①習主席の初出席（政治的格上げ）、②WAICO の提案から設立への進展、③テーマの「モデルの価値探求」から「実装・協働パートナー」への移行、④具身知能出展社の急拡大（2024 年 18 社→2025 年 80 社超→2026 年さらに拡大）という変化が確認され、3 年連続で規模・政治的比重が上昇している（分析を含む）^{23,24}

5. 知財・技術標準・オープンソース戦略（事実と分析）

中国はオープンウェイト戦略を国家的テコとして活用している。各種ランキングで GLM（Zhipu/Z.ai）、Qwen（Alibaba）、Kimi（Moonshot）、DeepSeek がオープンウェイト上位を占め、Qwen は Apache 2.0 ライセンスで日中韓を含む多言語処理に強みを持つ。価格競争力は劇的であり、DeepSeek V4 Flash は 100 万トークンあたり入力 0.14 ドル・出力 0.28 ドルと、米国最先端モデル比で約 20～50 分の 1 の水準にある^{9,28}。CNBC（2026 年 7 月 7 日）によれば、米 AI スタートアップ Lindy は全トラフィックを米国製モデルから DeepSeek へ移行し推論コストを 90%削減した²⁹。OpenRouter 公式ブログ（450 兆トークン超のログ分析）は、DeepSeek のトークンシェアが 2026 年上半期に 9%から 18%へ倍増し、同年 6 月に中国モデルがトークンシェアで米国モデルを逆転したと報告している²⁸

一方で緊張も表面化している。中国商務部が Alibaba・ByteDance・Z.ai 等と最先端モデルの海外アクセス制限を協議中と Reuters が報じており、「オープンを掲げつつ最先端は囲い込む」二面性が指摘される²⁵。標準化については、習演説と議長声明がいずれも「AI 発展戦略・ガバナンスルール・技術標準の整合と協調」を明記し、WAICO を通じた国連の場でのルール形成関与を狙っている

(分析)^{3,4}。学術面では WAIC Academic (WAICA) が新設され、チューリング賞受賞者の姚期智が大会主席、強化学習の父 Richard Sutton が国際共同主席を務め、論文集は Springer LNCS から出版される²²

6. 分析：技術トレンドと米中競争・分断リスク

【以下は分析・推測を含む】今年の WAIC は「モデル性能競争」から「システム効率・実装・エージェント・フィジカル AI」への軸足移動を示している。Huawei の戦略は、単チップ性能で NVIDIA に劣後しても自社光インターコネクトで大量のチップを一つの論理マシンに束ねるというものであり、米輸出規制下での国産代替 (CANN、openPangu 等のオープンソース化を含む) を体现する。ただし CUDA 比で 15 年超のエコシステム格差は残る^{21,32}。Alibaba・Baidu の「フルスタック」内製化も、米規制への構造的回答と解釈できる。

米中競争の文脈では、Stanford HAI の AI Index (2026 年 4 月 14 日公開) が、モデル性能の米中差が 2023 年 5 月の 17.5~31.6 ポイントから 2026 年 3 月時点で 39 ポイント (約 2.7%) まで縮小したと記載している²⁷。米国は H200 の対中一部解禁と輸出規制を併用し、中国は国産スタック・オープンウェイト・グローバルサウス外交で対抗する。ガバナンスでも、EU の AI Act、米国の緩やかな枠組みと Pax Silica、中国の WAICO と、三極が競合する構図である。

分断 (デカップリング) リスクとして、WAICO (29 カ国、途上国中心) と米国主導の Pax Silica (Joint Statement on AI Opportunity 署名 35 カ国、2026 年 6 月 25~26 日の第 2 回サミットで採択、日本・韓国を含む) は事実上の陣営分岐を形成しつつある。両陣営に名を連ねるのはカザフスタンのみと Reuters が報じている (米当局者の見解)^{25,31}。日本はヒロシマ AI プロセスを主導しており、明確に米国側の枠組みに立つ。

7. 日本企業への提言

以下の提言は、上記の確認事実と分析に基づく筆者の見解である。

【事業戦略①】中国製オープンウェイトモデルの「評価・限定活用」を直ちに開始する。Qwen (Apache 2.0、日本語処理に強い) 等をコスト／性能ベンチマークの基準線として社内評価に組み込む。ただし本番の機微用途では後述のデータガバナンス制約を前提とする。目安として、西側モデル比で総保有コスト (TCO) が 3 分の 1 以下かつ精度差が許容範囲内なら、非機微ワークロードでの採用を検討する (米 Lindy の 90%コスト削減事例が上限イメージ)。

【事業戦略②】フィジカル AI／ヒューマノイドのサプライチェーン地図を更新する。中国勢 (AgiBot・Unitree・UBTECH) が量産・実配備フェーズに入り、部品・RaaS で価格破壊が進む。

製造・物流・サービス現場の PoC を 2026 年度中に立ち上げ、国産・中国製・欧米製の三択で調達最適化を図る。

【技術戦略①】「非 NVIDIA」計算基盤の動向を継続監視する。Huawei Ascend／Atlas、Alibaba Zhenwu、Baidu Kunlun の本番投入とベンチマークを追跡する。中国市場で事業展開する場合は国産スタック対応の要否を評価する。第三者による独立検証が出るまでベンダー公称値を鵜呑みにしない。

【技術戦略②】エージェント前提のアーキテクチャへ移行する。長時間自律実行・ツール呼び出し・マルチエージェントが競争軸となる。自社製品の KPI を「トークン消費」から「実行成果」（Baidu の提唱する DAA 的指標）へ再設計する。

【知財戦略①】ハイブリッドのオープン・クローズ戦略を明文化する。中核差別化技術はクローズ、周辺・エコシステム形成部分はオープンウェイト活用、という線引きを経営レベルで定義する。議長声明が「健全な知財保護を前提としたオープンソース共有」を掲げた点は、自社知財の防衛設計（ライセンス選択・寄与範囲）を精緻化する契機となる。

【知財戦略②】標準化フォーラムに能動的に関与する。ISO/IEC、IEEE、および可能であれば WAICO 関連の技術標準討議の動向を把握し、日本の強み（産業機械・ロボット・車載・品質保証）を反映できるポジションを確保する。標準が域外で確定した後に受け入れる立場に陥らないよう先手を打つ。

【政策ウォッチ①】陣営分断（WAICO 対 Pax Silica）を経営リスクとして管理する。日本は米国主導枠組み側にあるため、中国製モデル・チップの採用には輸出管理・調達規制・データ越境規制の将来変更リスクを織り込む。四半期ごとに、(a)中国の最先端モデル海外アクセス制限の実施状況、(b)米国の対中輸出規制・同盟国調達規制、(c)EU AI Act の執行、を定点観測する。

【政策ウォッチ②】データガバナンス／セキュリティのデューデリジェンスを徹底する。中国製 AI 製品・端末は国家情報法等の下にある点を前提に、機微データを扱う用途では国産・欧米製との使い分けを行い、独立セキュリティ監査の有無を調達基準に組み込む。

判断を変えるトリガー：①中国が最先端モデルの海外アクセスを実際に制限した場合は中国製オープンモデル依存を見直す。②米中の性能差が再拡大・再縮小した場合は採用ポートフォリオを再配分する。③WAICO が国連の場で具体的な技術標準・認証を打ち出した場合は標準化関与の優先度を引き上げる。④主要顧客・取引先が中国製スタック採用へ傾斜した場合は相互運用性投資を加速する。

8. 留意事項

本報告は2026年7月19日時点の情報に基づく。会期は7月20日まで継続し、追加発表・修正の可能性はある。習演説・議長声明・WAICO 設立は中国政府一次情報（外交部・新華社）およびReuters 等で確認済みだが、Atlas 950 や Kimi K3 等の性能数値はベンダー公称値であり、独立した第三者ベンチマークは未確立である。WAICO の完全な29カ国リストは中国当局未公表であり、一部媒体の全列挙は単一情報源に依存する。日本政府のWAICO・WAIC 2026への公式反応、および日本企業のWAIC 2026出展の有無は、本調査時点で一次情報での確認に至っていない。参考文献のうち「URL未確認」と付記したものは、報道内容は調査過程で参照したがURLの直接検証に至らなかったものである。

参考文献

1. 新華社（Xinhua）「Xi calls for equitable global AI governance, unveils new cooperation body」2026年7月17日。
<https://english.news.cn/20260717/128a3c67ccdd44e0b80b5b10b9c01475/c.html>
2. CGTN「AI conference opens in Shanghai with over 300 global product debuts」2026年7月17日。
<https://news.cgtn.com/news/2026-07-17/AI-conference-opens-in-Shanghai-with-over-300-global-product-debuts-1OQQf08iaqs/p.html>
3. 中国外交部「Chair's Statement of the 2026 World Artificial Intelligence Conference & High-Level Meeting on Global AI Governance」2026年7月17日。
https://www.mfa.gov.cn/eng/xw/zyxw/202607/t20260717_11984715.html
4. The Singju Post「Transcript: Xi Jinping's Keynote Speech at World AI Conference 2026」2026年7月。
<https://singjupost.com/transcript-xi-jinpings-keynote-speech-at-world-ai-conference-2026/>
5. South China Morning Post「Xi Jinping to attend World AI Conference for first time as China elevates tech push」2026年7月。
<https://www.scmp.com/tech/article/3360404/xi-jinping-attend-world-ai-conference-first-time-china-elevates-tech-push>
6. CNBC Africa（Reuters 配信）「Twenty-nine countries sign agreement to establish global AI cooperation body」2026年7月16日。
<https://www.cnbc africa.com/2026/twenty-nine-countries-sign-agreement-to-establish-global-ai-cooperation-body>
7. Wikipedia「World Artificial Intelligence Cooperation Organization」（2026年7月時点）。
https://en.wikipedia.org/wiki/World_Artificial_Intelligence_Cooperation_Organization
8. PR Newswire（Global Times）「China sends fresh signal on global AI cooperation at WAIC」2026年7月。
<https://www.prnewswire.com/news-releases/global-times-china-sends-fresh-signal-on-global-ai-cooperation-at-waic-302828951.html>
9. Quartz「Xi Jinping positions China as open-source AI leader」2026年7月17日。
<https://qz.com/xi-jinping-waic-china-open-source-ai-governance-071726>
10. 日本経済新聞「習氏『グローバルなAI統治体制構築を』中国・上海で世界大会開幕」2026年7月17日。
<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOGM15CNZ0V10C26A7000000/>
11. Tech Times「Xi Jinping Steps Onstage as China Pushes Rival AI Governance Body for Global South」2026年7月

- 16 日. <https://www.techtimes.com/articles/320680/20260716/xi-jinping-steps-onstage-china-pushes-rival-ai-governance-body-global-south.htm>
12. Tech Times 「China Launches Rival AI Governance Bloc as WAIC 2026 Opens With 300 Product Debuts」 2026 年 7 月 17 日. <https://www.techtimes.com/articles/320812/20260717/china-launches-rival-ai-governance-bloc-waic-2026-opens-300-product-debuts.htm>
13. Taipei Times (Bloomberg/Reuters 配信) 「China's Moonshot unveils new AI model」 2026 年 7 月 18 日. <https://www.taipeitimes.com/News/biz/archives/2026/07/18/2003860930>
14. South China Morning Post 「Alibaba unveils new Qwen model, custom chips in bid to become China's AI factory」 2026 年. <https://www.scmp.com/tech/big-tech/article/3354212/alibaba-unveils-new-qwen-model-custom-chips-bid-become-chinas-ai-factory>
15. Tech Times 「Qwen3.7-Max Wrote Its Own Chip's Software in 35-Hour Run: Alibaba's Full-Stack Bet」 2026 年 5 月 21 日. <https://www.techtimes.com/articles/316951/20260521/qwen37-max-wrote-its-own-chips-software-35-hour-run-alibabas-full-stack-bet.htm>
16. China Daily HK 「Baidu unveils new Kunlun chips」 2026 年. <https://www.chinadailyhk.com/hk/article/623566>
17. AGIBOT (智元機器人) 公式 「AGIBOT Unveils Four New Products at WAIC 2026, Showcasing Embodied AI in Real-World Deployment」 2026 年 7 月. <https://www.agibot.com/article/231/detail/85.html>
18. 36Kr Europe 「Unitree & UBTECH: 2026 Breakthroughs of Chinese Humanoid Robots in Real-World Commercialization」 2026 年 7 月. <https://eu.36kr.com/en/p/3887956055636481>
19. BigGo Finance 「Unitree IPO Ignites Frenzy: Humanoid Robot Stocks Surge as Sector Shifts from Hype to Earnings Validation」 2026 年 7 月. <https://finance.biggo.com/news/2374a872-1444-4702-8a21-476cd2b54403>
20. 中国外交部報道官・林劍定例記者会見 (2026 年 7 月 17 日) (Global Security 転載) . <https://www.globalsecurity.org/wmd/library/news/china/2026/07/china-260717-prc-mofab01.htm>
21. George Chen, Substack 「PREVIEW: WAIC 2026 showcases Xi's keynote, Huawei's Atlas 950, ZTE's AI Agent Phone, and China's AI governance push」 2026 年 7 月. <https://georgechen.substack.com/p/preview-waic-2026-showcases-xis-keynote>
22. WAIC Academic 2026 公式サイト. <https://waica2026.worldaic.com/cn/>
23. Wikipedia 「World Artificial Intelligence Conference」 (2026 年 7 月時点) . https://en.wikipedia.org/wiki/World_Artificial_Intelligence_Conference
24. Edgen 「WAIC 2026 to debut 300 AI products as Shanghai hosts 100,000 sqm expo」 2026 年 7 月. <https://www.edgen.tech/ja/news/post/waic-2026-to-debut-300-ai-products-as-shanghai-hosts-100000-sqm-expo>
25. Reuters 「Xi champions new world AI order」ほか関連報道、2026 年 7 月 16～17 日 (URL 未確認)
26. Fortune 「Kimi K3 で第 2 の DeepSeek ショック」関連報道、2026 年 7 月 17～18 日 (URL 未確認)
27. Stanford HAI 「AI Index Report 2026」 2026 年 4 月 14 日公開 (URL 未確認)
28. OpenRouter 公式ブログ (2026 年 1 月 1 日～6 月 14 日のトークンログ分析)、2026 年 6 月 (URL 未確認)
29. CNBC 「米 AI スタートアップ Lindy の DeepSeek 移行によるコスト 90%削減」 2026 年 7 月 7 日 (URL 未確認)
30. Omdia 「General-Purpose Embodied Intelligent Robot 2026」 2026 年 1 月 8 日公開 (URL 未確認)
31. 米国務省 「Pax Silica」イニシアティブおよび「Joint Statement on AI Opportunity」 (35 カ国署名、2026 年 6 月 25～26 日) 関連一次情報 (URL 未確認)
32. Huawei 公式発表・基調講演 (Atlas 950 SuperPoD、2025 年 9 月) および DIGITIMES・TechTimes・Convequity・Seoul Economic Daily 各報道 (URL 未確認)